

令和2年度 第73回卒業証書授与式 式辞

厳しい冬の寒さもやわらぎ、校庭の梅の花に春の訪れを感じるこの佳き日に、令和2年度第73回卒業証書授与式を無事に挙げていくことは、学校にとりまして何よりの喜びでございます。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、入場者を制限しての簡素な式となりますが、今できることを、心を込めて準備をいたしました。華やかに門出を祝うことはできませんが、何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

本日、ご列席いただきました保護者の皆様。お子様の巣立っていく姿に、感慨ひとしおのことと存じます。心よりお祝い申し上げます。そして、ただいま卒業証書を授与した80名の皆さん、卒業おめでとう。教職員一同、心より祝福いたします。

さて、今から3年前、皆さんは音楽や美術への学びを心に誓い、本校の門をたたきました。それ以来、校訓である「自律・恕思・創造」の体現を目指し、芸術と真摯に向き合い、弛まぬ努力を続けて、素晴らしい成果を残してきました。

無事に開催することができた音楽科の定期演奏会、美術科の美術制作展など、対外的行事では、来場された多くの方々から賞賛と感動のメッセージをいただきました。コロナ禍にあって、芸術が人の心を癒し、勇気づけることができるということを実感する機会となりました。音楽科では、多くのコンクールが中止となる中で、大分県高等学校音楽コンクールが開催され、各部門で優秀な成績を収めてくれました。美術科では、例年以上に多くのコンクールで入賞・入選を果たしてくれました。特に県美展においては、最高賞である大分県知事賞をはじめ、各賞に8名が入賞、その他の生徒もすべて入選という快挙を果たしてくれました。部活動においては、合唱部、吹奏楽部ともに県大会が中止となり、成果を残すことはできませんでしたが、最後まであきらめずに活動を続けてくれました。

そして、こうした輝かしい成果の裏側には、言葉では語り尽くせない苦労と努力があったことも理解しています。朝早く学校に着くと、すでに音楽棟には様々な楽器の音色が響いていました。美術棟では、差し込む朝日の中で一心に筆を動かす生徒の姿がありました。授業中に校内を歩くと、どの教室からも熱心な先生方の声と、その声に応えようとする皆さんの真摯な姿がありました。音楽科の主科テストや美術科の実技テストでは、ひとり一人が今の自分と向き合い、出せる力をすべて発揮して厳しい評価に立ち向かう姿がありました。こうした、芸術の道をひたむきに歩き続け、決してへこたれない皆さんの姿こそが、「緑丘」に脈々と流れ続ける伝統なのだと思います。

ご存知の通り、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う臨時休校で幕を開けました。2か月遅れで学校が再開した後も、第2波、第3波の感染拡大が押し寄せ、予定していたことができなくなる日々が続きました。感染防止に気を配りながら、大学を訪れることもままならない中での受験は、困難を極めたと思います。しかし、皆さんはよく耐え、小さな努力を積み上げながら、志望校を合格校に変えていきました。また、様々な問題を一つひとつ克服し、自分の演奏を聴いてもらえる喜びや、作品を観てもらえるありがたさを味わうことができたのも皆さんだったと思います。コロナ禍に明け暮れたこの一年を忘れることなく、当たり前が日常が一瞬で非日常へと変わる、社会というものが内包する不確実性について、しっかりと記憶に留めておいてください。

さて、このコロナ禍が収束した後は、いったいどんな時代が皆さんを待ち受けているのでしょうか。今、アメリカのシリコンバレーでは盛んにSTEAM教育が実践されています。これまでにない発想で革新的なアイデアをもたらす人には、理系教科の勉強に加え、美術や音楽などの芸術の視点が欠かせないものとなっています。ハーバードやMITなど世界をリードする大学においても、イノベーションを生み出す人を育てるために、音楽教育・美術教育が非常に重要な分野となっています。

これが世界の現実なのです。

皆さんが3年間、この学校で培ってきた、無から有を生み出す創造力、聴く者・観る者に確かなメッセージを伝えられるコミュニケーション力、作品と向き合い質を高めていく集中力と持続力、ゴールをイメージしながらその過程を構築する段取り力、そのいずれもが変化し続ける社会を生き抜くための重要なコンピテンシーとなっています。

どうぞ、この芸術緑丘高校での学びを礎に、さらに力を伸ばして行ってください。そしてその先には、皆さんを必要としている新しい社会が待っています。芸術がアフターコロナの社会変革に果たす役割について考え、自分なりの答えを持って社会に羽ばたいてください。私たちは、この学び舎から、君たちの後輩とともに、その羽ばたきを見守っています。

終わりになりますが、保護者の皆様一言お礼を申し上げます。お子様をお預かりして3年間、生徒ひとり一人の個性と才能を伸ばしていくために、職員一丸となって努力してまいりました。至らない点も多々あったとは思いますが、ありがたいことに、生徒は本当にこの学校が好きだと言って、日々生き生きと生活を送ってくれました。これもひとえに保護者の皆様の深いご理解とご支援の賜物だと考えます。本当にありがとうございました。今後とも、本校の力強い応援団として、温かい目で見守っていただければ幸いです。

コロナ禍に始まりコロナ禍に終わる、あっという間の1年でした。この間、様々な行事や活動の中止を決定しながら、同時に、高校生活の最後のページに刻まれるはずだった、消えていく思い出の瞬一瞬を思い、申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。それでも、君たちは決して不平や不満を表すことなく、今、自分たちがなすべきことに真剣に向き合ってくれました。そして、君たちの真っ直ぐなまなざしと、芸術に対する情熱と、目を見張る才能と、そして屈託のない笑顔に何度も何度も感動をもらいました。君たちとお別れするのはとてもつらいです。できればもう少し一緒にこの学校で楽しいひと時を過ごしたい。しかし、もうお別れの時です。次のステージがあなた方を待っています。どうぞ前を向いて、力強く次の一步を踏み出してください。

夢と希望を胸に、この学び舎から力強く羽ばたいていく皆さんの前途に、幸多からんことを祈って、式辞といたします。

令和3年3月1日

大分県立芸術緑丘高等学校
校長 渡辺 智久